ほんとうの財政再建は

ムダづかいやめ、くらし応援でこそ

ゆいかんじ市議（日本共産党）は飯塚市議会の６月定例会で、①行財政改革の問題点②ごみ袋値下げ③学校給食の保護者負担軽減について、一般質問をおこないました。

飯塚市議 ゆいかんじ

『行財政改革』改訂版 11月までに計画づくり

齊藤市長は、来年度から行財政改革をさらに強化する方針（行財政改革改訂版づくり）を打ち出しました。7月から始まるタウンミーティングをへて、11月には計画つくりあげる予定です。

児童クラブや保育料の値上げ議案が、12月議会に提出されないか心配されます。ごみ袋や学校給食費の値上げも実施されたばかりです。

> 市の考え方
>
> 「市民サービスの縮小、廃止、取捨選択の視野に入れて検討を行う」
>
> 「行財政改革のさらなる取り組みついて」（5月18日議会提出）より

市民にガマン押しつけ 新たなムダづかい

齊藤市長は行革を始めるにあたって、「しばらくガマンしてください。財政をよくして市民くらしをよくします」という主旨の説明をしてきました。

しかし、この4年間をふりかえると、市民にはさまざまな負担増、サービス削減を押しつけながら、ムダづかいにはあまり手をつけていません。むしろ、鯰田工業団地づくりなど、新たなムダづかいを広げています。

市長はいつまでガマンを押しつけるつもりでしょうか。

4年間の財政削減 29億円計画上まわる

合併後平成18年度から22年度までの5ヵ年を第1次行財政改革の期間として98項目、129億円を削減し、平成22年度には市の財政を黒字にする目的でした。今年は4年目ですが、計画を29億円上まわるペースで、すでに117億円に達しています。来年は41億4千万円削減予定です。

ムダを削ってくらしを応援するのが、市民の求める行財政改革であり、今こそ流れを切り替えるべきです。

齊藤市長 逆立ち〝行財政改革〟の4年間

なかなか減らない ムダづかい

大規模投資事業（鯰田工業団地づくり）

企業誘致優遇推進（市長が社長をつとめる会社にも）

部落解放同盟など同和団体への補助金（大半は人件費）

児童クラブ&保育所も来年度から値上げ？

ふえた市民負担 削られた市民サービス

国民健康保険税の引き上げ（市民負担増５億６千万円）

長寿祝金の廃止と縮小　2億9000万円

市立幼稚園バス有料化 400万円（庄内、頴田）

障害者給付　4000万円

生活関連工事　28億6000万円

ごみ袋代値上げ 1億3000万円

来年度目標 第１次改定によってさらに大きくなる

41億円

行財政改革５か計画（2006年度以降）

どこまでやるの？

目標	１２９億円
４年目まで	１１７億円
来年度	４１億円
合計（見通し）	１５８億円

飯塚市議団ニュース

No.68 2009年7月 市政報告 日本共産党飯塚市議団

（連絡先）飯塚市役所内日本共産党控室 代表電話（22）5500 内線415

日本共産党嘉飯地区（22）6783